

2020年3月
実証実験スタート！
1/30 募集開始

郊外住宅地での新しい働き方に トライしてみませんか？

次世代郊外まちづくりが推進する「田園都市で暮らす、働く」をテーマとした横浜市による SDGs 未来都市の実現に向けた取組の一環で、企業・団体のコラボレーションにより次の社会実験を実施します。

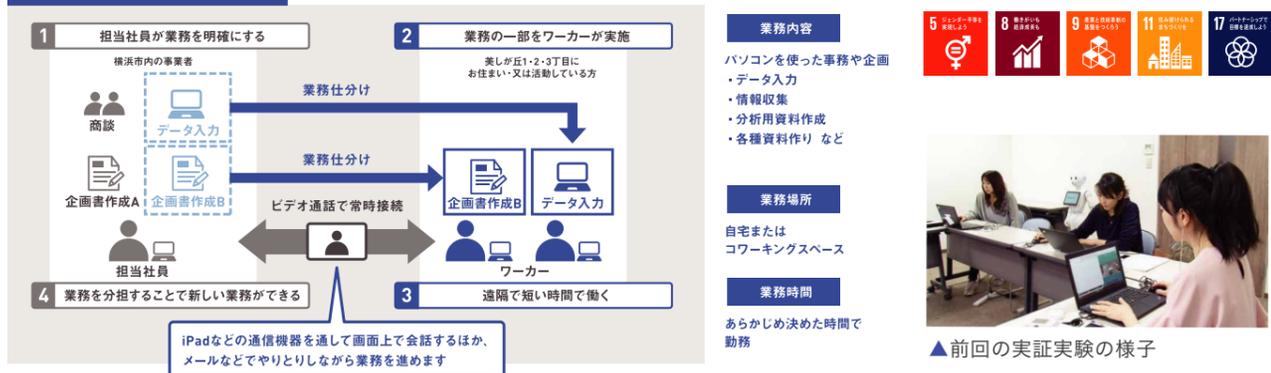
新しい職住近接の働き方「ショートタイムテレワーク」

自宅や自宅付近のワーキングスペースでの短時間での遠隔勤務という柔軟で新しい働き方です。これまでヨコハマ SDGs デザインセンターとソフトバンク株式会社が実証実験を進めてきましたが、今回は新たな展開としてたまプラーザにお住まいの方と市内企業、地域のワーキングスペース（美しが丘ワーキングスペース）をつなぎ、子育て中の女性などの時間に制約のある方々が、スキルを活かして働きやすい「まち」の実現を目指します。

自宅で働く
空いてる時間で
短時間勤務



新しい働き方イメージ



- 子育て中の方 大歓迎
- 事前説明会 1月30日
- 時給あり
- 期間中フォロー 制度あり
- トライアル期間 3月初～8月末
- 短時間勤務 週8時間程度

トライアル参加企業 **向洋電機土木株式会社**
市内公共施設等の電気設備設計・施工を行っている企業です。よこはまグッドバランス賞、横浜型地域貢献企業、テレワーク先駆者100選などを受賞するなど、先駆的な取組を実践しており、SDGsへの貢献を企業理念に掲げ、テレワークの導入をはじめとしたすべての人が働きやすい環境づくりなどに力を入れています。
(HPアドレス: <http://www.kouyo-dd.jp/index.html>)

ヨコハマ SDGs デザインセンター SoftBank 次世代郊外まちづくり WISE CITY Selun

詳細やお申込みはこちら ▶ <https://yokohama-sdgs.jp/events/detail/63>

次世代郊外まちづくり WISE CITY <http://jisedaikogai.jp/>
Web サイトはこちら 横浜市 東急

SDGs未来都市・横浜

横浜市は2018年6月に、SDGsの達成に向けて優れた取組を提案する都市「SDGs未来都市」と、その中で特に先導的な取組をする「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。
「環境を軸に、経済や文化・芸術による新たな価値・賑わいを創出し続ける都市の実現」をビジョンに、SDGs未来都市の横浜型大都市モデルに挑戦しています。

WISE CITY
WELLNESS & WALKABLE
INTELLIGENCE & ICT
SMART・SUSTAINABLE & SAFETY
ECOLOGY・ENERGY & ECONOMY

2020年1月発行
編集・発行
横浜市・東急株式会社
[連絡先] 横浜市建築局住宅再生課
☎045-671-4083

次世代郊外 まちづくり通信

vol.30

次世代郊外まちづくり通信は、「次世代郊外まちづくり」のさまざまな活動をお知らせし、地域の皆さまをはじめとして多くの方々知ってもらうためのニュースです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

“リビングラボ” やっています！

“リビングラボ”とは、産学公民連携により、地域課題の解決に向けた施策やサービスを創出する取り組みを指します。次世代郊外まちづくりでは、WISE Living Lab を活動拠点に、たまプラーザでのリビングラボによるまちの課題解決を目指し、さまざまな活動を進めています。

たまプラーザでのリビングラボの動き
地域の方と「リビングラボ勉強会」を実施
2017年には住民のみなさまとたまプラーザで実現したいリビングラボをイメージするため、“リビングラボ勉強会”を開催しました。

企業や大学と連携してリビングラボプロジェクトをスタート
2018年からは“まずは実践してみよう！”ということで、具体的なプロジェクトが動き出しています。

事例1：たまプラ・コネクト × NTT × NTTドコモ
IoT・ICTを活用した“たまプラ・リビングラボ”プロジェクト
たまプラ・コネクトが中心となり「コミュニティ活性化」のため、NTTとNTTドコモと共にIoT・ICTを活用したコミュニティ活性化のためのサービス実装に向けた検証を住民のみなさまと共に実施中です。

事例2：地域の子育てママ × KDDI 総合研究所
ママたちのココちいいをカタチにしてみたらプロジェクト
地域のママが中心となり、KDDI 総合研究所と共に「ママのためのサードプレイス」について検討。主に未就学児をお持ちのママのアイデアをもとに「シェア冷蔵庫」を検討するイベントを実施しました。

IoT・ICT を活用した “たまプラ・リビングラボ” プロジェクト



プロジェクト期間 2019年6月15日よりスタート!

ステップ1 対話による課題の抽出

たまプラ・コネクトが中心となり、地域でまちづくり活動を行っている多種多様なメンバーを招集。ワークショップや対話を通じて、「コミュニティの活性化」に関する具体的なアイデアを抽出しました。



ステップ2 課題解決のためのサービスを検討

地域住民と NTT や NTT ドコモの担当者を交えて、「コミュニティの活性化」のためのサービスを検討。「まち歩きマップ」「たまプラチャットボット」「シェアリングサービス」3つの実験を実施することを決定しました。



ステップ3 プロトタイピング (※)

たまプラザエリアにお住いの約 600 名 (2019 年 11 月現在) の方にご参加いただき、イベントやワークショップを実施しながら、チャットボットやまち歩きマップを実際にご利用いただいています。アンケートの実施やデータ分析、さらに住民の方々のご意見を伺いながら、みなさんと一緒に、より地域に適したものにバージョンアップを進めています。



リビングラボに参加しませんか?

まだまだ参加者募集中!
チャットボットに登録いただければ
どなたでもご参加いただけます!



PEOPLEWISE CAFE には、
まち歩きマップの情報が見られます!
ぜひお越しください。



ママたちのココちいいを カタチにしてみたらプロジェクト



プロジェクト期間 2018年2月16日よりスタート!

ステップ1 対話による課題の抽出

「子育てママの場を考える」をテーマに、たまプラザ地域の子育て中のママを中心とした 12 名の方と座談会を開催。レゴブロックを使用し、ママの日常の中のモヤモヤや理想の空間などを抽出しました。



ステップ2 課題解決のためのサービスを検討

座談会にご参加いただいたママのうち、コアメンバーを募って、KDDI 総合研究所とともにさらなるディスカッションやリサーチを実施。ママのためのサードプレイスとして「シェア冷蔵庫」というアイデアにたどり着きました。



ステップ3 プロトタイピング (※)

「シェア冷蔵庫」をやってみよう! ということで、3 日間、実験的にイベントを実施。事前にご応募いただいた 15 名のママたちと、1 台の冷蔵庫をシェア。余ったおかずや使いきれない野菜や果物などを“冷蔵庫”を介してシェアすることで、つながりが生まれました。



12/5「シェア冷蔵庫」活動報告会を実施しました!

実験後のアンケートやヒアリング内容も踏まえて、実験報告会を実施。改めてのプロジェクトの趣旨や振り返り、参加者の声などを共有。これらの取り組みを通じて、たまプラザにおける新しいママのための“場”の可能性を感じることができました。また今後の展開の検討も始まっています。



※ プロトタイピングとは、一般的にすぐに具体的な開発を目指すのではなく、ユーザーテストやアイデア抽出をくり返しなが、新しいモノ・コト・サービスをつくるプロセスのことを指す。